



厳冬期のクラシックルートを行く

吾妻連峰 高山 スキー

厳冬期だが、強い冬型が決まらず天気が周期的に変わる中、東吾妻のクラシックルート「高山下り」に行ってきました。

残念ながら悪天のため東吾妻山は滑れませんでした。快適な酸ヶ平小屋に泊まり、高山下りのパウダースノーを楽しんできました。

1月13日（土）：快晴のちガス

車を1台下山先の土湯温泉にデポしてから、高湯温泉から入山。気圧の谷の影響で冬型が決まらず、快晴、風なし、トレース有り、慶応山荘まで快適に進む。その先は稜線に出るまで、森山リーダーを先頭に膝ラッセル。名前どおりの形の家形山を横目に見つつ、稜線上の大岩に着く頃には天候下り坂でガスが出てきた。小屋に向かう稜線は一切経山を含め風が強いようで雪がほとんど積もっていないガリガリだが、気にせずシールで歩く。最後の酸ヶ平への下りで本日はじめてシールを外すが、暗くなり始めるなか、思い雪で快適とは言えなかった。

酸ヶ平小屋は斜面の途中にあり、吹雪いていると見つけにくそう。入り口を少し除雪して中に入ると広々として快適な泊まり場でした。テントをしっかりと張って就寝。夜半からは風がうなっていた。

1月14日（日）：吹雪のち晴れ

朝起ると寒く、外は吹雪き。やはりこの時期は基本的に天気が悪い。最短ルートで下山しようということになり、東吾妻ピークはカットし、蓬萊山の東側灌木帯、東吾妻山の東側樹林帯をトラバースし、吾妻スカイラインへ。高山の登りにかかる頃には、次の気圧の谷の影響で天気が回復してきて、登るとともに徐々に晴れ間が出てきた。東吾妻のすそ野に広がる樹林帯が美しい。パワフルなリーダーと栗原さんのラッセルで見える高度をかせぎ、反射版のある山頂に着く頃にはすっかり快晴。昨夜からの新雪もあり、滑りの期待が高まる。



東吾妻の樹林帯を行く

【日程】

2018年1月13日（土）
～14日（日）

【メンバー】

森山（L）、坂村、栗原、
長山

【地形図】

坂谷、天元台、吾妻山、土湯
温泉

【記】長山



天気は良いもラッセル深し



静まる五色沼

下り出しから上質なパウダースノー。リーダーが奇声を発しながらどんどん滑る。良い感じ。樹林内に入っても樹間がちょうど良い間隔でスイスイのツリーラン。今までの苦勞が報われ、皆笑顔がこぼれます。

1480mまではほぼ傾斜に向かって滑り、それ以降は夏道沿いの尾根を滑る。林道も快適に滑り、デポした車に到着し終了。高度差1200mの下りを満喫した「高山下り」でした。



高山の直下、パフパフ

【行程】

- 1/13 高湯温泉のスカイラインゲート前
 (8:38) ~ 賽河原 (10:35) ~ 井戸溝
 (11:04) ~ 慶応山荘分岐 (11:40) ~ 大岩 (13:30) ~ 酸ヶ平避難小屋 (15:54)
- 1/14 酸ヶ平避難小屋 (8:00) ~ スカイライン (鳥子平の北) (10:00) ~ 高山 (12:00) ~ 男沼分岐 (14:57)



高山からの1200mの下りを楽しむ